

開催地名：岩手県矢巾町	
開催日時	令和 5 年 1 月 28 日（土） 10：30 ～ 11：30
開催場所	矢巾町公民館
語り部	山田 修生 （宮城県仙台市）
参加者	矢巾町防災士 31 名
開催経緯	<p>本町では、近年全国的に増加傾向にある大雨災害等に備え、自主防災組織や各地区の防災士を中心とした避難所運営等のための訓練やマニュアル整備に力を入れている。しかし、現状は、避難所開設を要するほどの災害に直面する機会はそれほど多くないため、実際の避難所運営がどのように行われているかイメージが不十分な方が多数存在すると史料する。また、地域住民の安否確認や避難完了の確認を行う際の留意点などに関する知識が乏しいものと思料する。</p>
内容	<p>（１）はじめに</p> <p>45 年前ほど前の昭和 53 年 6 月に、死者 28 人、負傷者 11,000 人、家屋損壊 13 万戸を記録した宮城県沖地震が発生した。この地震がターニングポイントとなって、宮城県は地震防災に本格的に取り組み始めたと言える。</p> <p>2011 年 3 月 11 日 14 時 46 分に、水深 6,500 メートルにある縦 500 キロ、横 200 キロの広さの海底プレートの跳ね上がりによって発生した大地震は、マグニチュード 9.0 を記録した。西暦 869 年にこの大地震に匹敵する規模の貞観地震が東北地方で発生しているため、1,000 年に 1 度の規模の災害と言われている。</p> <p>2011 年 3 月 11 日の午後、突然、地下からすごい勢いで突き上げる感じの揺れを感じた。そして縦揺れ、横揺れ、今度はななめ揺れと、どうしたら良いか分からないような揺れが長く続いた。その後大きな津波が来ると思い、住んでいるマンションの居住者を避難所へ誘導した。これまで実施してきた避難訓練は町内会の有志が集まってやっていたが、町内会ごとの自主防災組織は全く稼働できず、家族、あるいは近所同士の小単位で避難を余儀なくされたのが実情である。</p> <p>現在各地で行われている避難訓練は、通常土・日・祝日を中心に行われている。しかし東日本大震災は、勤労者、特に男性がほとんどいない平日の昼間という時間帯に発生した。高齢者や主婦しかいない状況下での避難訓練も想定していただくとともに、自主防災会や役員への女性の登用についても、今後は推進していく必要があろう。</p> <p>地震が収まった後、私は避難所の運営に携わった。すでに訓練等で担当が決まっているところも多いだろうが、名簿班、総務班、情報広報班、食料物資班、救護衛生班などに分かれて活動することになる。一番重要になるのはトイレの問題である。避難所は人数が多く、トイレが必ず詰まる。組み立て式のトイレもすぐいっぱいになる。これは今後の重要課題として意識しておいてほしい。</p> <p>また避難部屋の周知徹底も重要である。指定避難所に行った場合、どこかの部屋に行けば良いか皆悩む。体育館だと思われることが多いが、水害の場合 1 階の高さでは水没する恐れがある。必ず 2 階以上に避難するように周知したい。</p>

(2) 東日本大震災から学んだこと

東日本大震災は、災害対策を決して怠っていたわけではないが、これまでの取り組みが無効だと感じてしまう程の規模であった。いつどこで起こるか分からない自然災害を予測することは難しい。従って、自然災害と共生していくことが、被害を最小限にする手立てとなる。自分の居住する地域で起こった土砂崩れや河川の氾濫、水害、地震についての情報は、必ず把握していただきたい。

避難時には、声が大きく統率力のとれる人が先頭に立つのが良い。気が動転している人が沢山いるため、混乱している人を鼓舞することが大切である。そしてもし可能なら、皆さんの自宅の中に、家族全員が地震の際に逃げ込む部屋を準備しておいていただきたい。その部屋には家財道具も何も一切置かないということが肝心である。もし地震があった場合、家族全員がその部屋に逃げ込む。何もないからけがをする心配もない。

また、各地域で、災害時に当面の避難生活を行なう避難所として、指定避難所が設定されている。指定避難所となっている学校の近隣に居住されている方々については、平常時の防災訓練等で、学校との連携を密にしていきたいと思う。そうすることで災害時にも連携がスムーズに行なえるはずだ。

(3) まとめとして

公助が機能するまでの 72 時間、自助と共助で乗り切る必要がある。3 日間は役所の援助を頼らずにしのげるよう、必要な備蓄や準備に取り組んでいただきまずは自分の命を、そして家族の命を優先に考え、行動していただきたい。

経験は決して自分を裏切らず、役に立ってくれるものである。防災訓練、避難訓練等、役に立たないと思わずに、いざとなったらこれは必ず役に立つと考えて参加してほしい。避けられない災害と共生することを意識して、備えは怠らずに生活していただきたいと思う。



開催地より

災害時は、自主防災組織の主体的な活動が重要であることから、自助・共助の意識を向上させるような訓練を実施していきたい。また、防災訓練等を通じて、地域のつながりを重視し、女性や子供も参加できるような訓練を、自治会と共同で工夫していきたい。